



<ジャン＝ロベール・ピット>

国、地域：フランス（パリ）

年齢：68歳

現職：食の遺産と文化のフランス委員会
(MFPCA) 委員長
パリ・ソルボンヌ大学（パリ第4大学）
名誉教授

○ フランスにおける和食の奥深さの普及・海外での和食ブームを起因した「和食のユネスコ無形文化遺産登録」に尽力

- ・和食のユネスコ無形文化遺産登録にあたり、「日本食文化の世界無形遺産登録に向けた検討会」に対して、和食の登録を勧めるとともに、フランスのガストロノミー（フランス美術食）の登録時の経験を踏まえた助言等を実施。
- ・日本国内での食のシンポジウムにも積極的に参加し、「自然景観と五感を通じて一体になり、和食を味わう素晴らしい伝統や慣習と併せて継承し、発展させていくことが日本のテロワールの核心になっていく。」と働きかけを行っている。

1949年パリ生まれ。現在はパリ・ソルボンヌ大学（パリ第4大学）の名誉教授を勤めている。2003年から2008年まで同大学の学長を務め、2006年にはパリ・ソルボンヌ大学アブダビ校（アラブ首長国連邦）を創設。特に食とワインを中心とした歴史・文化地理学と景観・国土計画の歴史の研究で著名。

2008年にフランス学士院（倫理・政治学アカデミー）会員となり、2017年から終身幹事を務める。また、1821年創立と世界で最も歴史の古い、フランス地理学会の会長を務め、さらに「食の遺産と文化のフランス委員会」の委員長として、フランス料理のユネスコ（国連教育科学機関）無形文化遺産への登録指定に向けた広報活動を行った。その時の経験を踏まえ、和食のユネスコ無形文化遺産登録にあたって、「日本食文化の世界無形遺産登録に向けた検討会」に対して助言等を実施し、フランス国内においても和食の魅力を広く普及している。

近年では、日本国内での食のシンポジウムにも積極的に参加し、「日本人にとって、季節ごとに変化する自然景観と五感を通じて一体になり、和食を味わう素晴らしい伝統や慣習と併せて継承し、発展させていくことが日本のテロワール（土地の地域性）の核心になっていく。」と働きかけを行っている。

テルアビブ大学（イスラエル）、ヤシ大学（ルーマニア）、トビリシ大学（ジョージア）、ヨーク大学（カナダ、トロント）より名誉博士号を授与された。また多数の受賞歴があり、日本では天皇陛下より旭日双光章を受章するなど、世界各地で活躍をされている。